

ウル第三王朝時代のウンマにおける神殿への奉納⁽¹⁾

前 田 徹

はじめに

神殿とは一義的には神々を祭る場所であるが、シュメールにおいては社会もしくは国家の組織としての機能を果たす重要な一つの経営体でもあった。初期王朝時代やウル第三王朝時代のラガシュ市の神殿が典型であるようにウル第三王朝時代の各都市は、その都市の支配者が管轄する王の家産的経営体と神殿の二重の構造になっていたと考えられる。⁽²⁾シュメールの社会を考察するときこの二重構造の解明が必要になる。ただし、こうした研究においては、シュメール各都市の特色を考慮しなければならない。例えば、ラガシュにおいては神殿が耕地の管理や農作業の主体としてあらわれるのに対して、⁽³⁾ウンマにおいては、農作業は地区別に区分され、神殿主体とはなっていないのである。ラガシュに比べて経営主体としての神殿という性格がウンマでは明確でないように思われるのである。

ウンマにおける神殿の実像を王権や都市支配者（エンシ）権との関わりから明らかにすることが重要な研究課題となるのであるが、本稿では神殿に対して行われた献納と定期支給を、それに関係する者を特定するという資料整理に限定して考察したい。これは、ウンマの都市構造を研究するための基礎作業として位置付けられる。

1 献納と定期支給

定期支給 (sá-dug₄) とは、神々への月単位の奉納や、神殿に奉仕する者への食料支給などのことである。献納とは、都市の各層からの持参物 (mu-túm) である。隣接都市ラガシュにおいては、この献納を a-ru-a という用語で示すが、⁽⁴⁾ウンマに於いては、持参一般を示す広い意味内容をもつ mu-túm が使用された。a-ru-a は、持参されたものが奴隷など人間である場合にのみ、「ある人から献上された人（奴隷）PN a-ru-a PN」という形式を取るのであって、その点でラガシュと用語法が相違した。

人々からの献納 (mu-túm) は、伝統的な都市と王の直轄地では扱いが異なった。⁽⁵⁾ラガシュやウンマなどの伝統的シュメール都市では神々への献納として持参され、そこからの再配分として支配者たちの組織に与えられた。それに対して王の直轄地であるプズリシュダガンでは王への献納になっており、そこから神々への献納が支出されるのである。王権の各都市への浸透力の程度がこの差を生むのであろう。

ウンマにおける持参 (mu-túm) 文書は、二種類に分けることができる。個人からの家畜などの献納の受け取りを一括記録するものと、その献納物を支出・再配分する記録である。受領記録は、一月もしくは一年をまとめるもの (YOS 4 212) や、持参者名を記さないで物品のみの一年間の収支決算書 (Lafont, RA 86/2, pp. 108-9) がある。例として、受領と支出が対応する文書、MVN 16 908、UTAMI 3 1882、MVN 16 906を挙げる。

(1) MVN 16 908 (AS 8 iii)

1 šu-nir ur-lugal

(中略)

1 gu₄-mu-3 lú-^dnagar-pa-èlú-maḥ i-dab₅1 gu₄-giš ur-^dnin-su dumu gu-du-duegi-zi-maḥ i-dab₅

šū.niḡin 2 šu-nir

(中略)

šū.niḡin 1 gu₄-mu-3 lú-maḥ i-dab₅šū.niḡin 1 gu₄-giš egi-zi-maḥ i-dab₅mu-túm-^dšará

itu-še-kar-ra-gál-la

mu en erida^{ki} ba-ḥn

1 シュニル、ウルルガル (の持参)

1 頭の3才牛 ルナガルバエ (の持参)

ルマフ神官が受領した。

1 頭の耕作牛、グドウドウの子ウルニンス (の持参)

エギジマフ神官が受領した。

合計2のシュニル

合計1頭の3才牛 ルマフ神官が受領した

合計1頭の耕作牛、エギジマフ神官が受領した

(以上は) シャラ神のための持参である

ウンマの第3月

アマルシン治世第8年

(2) UTAMI 3 1882 (AS 8)

2 gu₄-giš mu-túm-^dšaráki lugal-nir-ta egi-zi-maḥ i-dab₅niḡ-dab₅ zâ-mu-ka mu ḥu-úh-nu-ri^{ki} ba-ḥulmu en-erida^{ki} ba-ḥn-gá ba-sum

2 頭の耕作牛、シャラ神への持参、

ルガルニルからエギジマフ神官が受領した。

アマルシン7年のニグダブザムとして。

アマルシン8年

(3) MVN 16 906 (AS 8)

2 áb-AL, 1 gu₄-mu-3, 1 áb-mu-3, 1 gu₄-mu-2, 1 dūr-mu-1, 4 udu-bar-gál,

30 udu-bar-su-ga, 12 máš, 5 ma-na síg, 2 túg,

mu-túm-^dšará ki lugal-nir-tazâ-10-šè lú-maḥ i-dab₅

(以上は) シャラ神への持参、ルガルニルから

十分の一税として、ルマフ神官が受領した。

mu en-erida^{ki} ba-hun

アマルシン 8 年

ルマフとエギジマフ両神官職は、ニンディンギルとともに神を祭る重要な神官である。神殿における祭儀を明確にするために、彼らの活動を検証することが必要であるが、ここでは触れない。ルマフ神官は、(1) の記録では 3 才牛を受領するのみであるが、(3) の文書では、3 才牛の他に、山羊や羊や羊毛 (sig) や衣類を受け取っている。エギジマフ神官も、(1) では 1 頭の耕作牛を受領するが、(2) では 2 頭となっている。(1) は第 3 月のみの記録であり、その他の月の持参物からこれらの神官に渡されたものを合計したのが (2) と (3) の記録である。すなわち、(1) は一ヶ月のみの記録であり、その他の月にもシャラ神への持参がなされており、その記録は別の文書に書かれたことが明らかになる。

定期支給 (sá-dug₄) は、諸神殿への支給をまとめて記すもの (Nik 2 273; AnOr 7 329=MVN 18 329) と、個々の支給記録からなるが、次に示すような個々の支給記録が圧倒的な用例数を占める。

MVN 3 155 (S 37)

15.1.0. še gur-lugal, sá-dug₄ é-gar-lagar, ki ir₁₁-ta a-bu-da šu ba-ti

seal: a-bù-da/dumu gir-ni/

「15 1/5 王のグル (升) の大麦、ガルラガル神殿への定期支給、イルからアブダが受け取った。」

円筒印章の銘：「ギルニの子アブダ」

このテキストでは、受領者の表記方法が粘土板文書本文と円筒印章の銘では異なっている。

2 持参と定期支給の対象となる神殿

1 で示したような記録に現れる神殿を整理し、持参と定期支給の対象となる神殿をまとめると次のようになる。(当該テキスト等については補 1 と 2 を参照。)

持参対象の神殿

èš-didli (= ^dnè-iri₁₁-gal gar-ša-na^{ki})^dinanna zabalām₅^{ki}^dnin-ur₄-ra/^dnin-ur₄-ra umma^{ki}^dšarā-a-pi₄-sal₄^{ki}^dšarā-anzu^{mušen}-babbar^dšarā -ki-an^{ki}

定期支給を受ける神殿

èš-didli

^dinanna zabalām₅^{ki}=^dnin-zabalām₅^{ki}^dnin-ur₄-ra^dšarā -/ -anzu^{mušen}-babbar/

^dšará umma^{ki}

^dma-an-iš-du₁₀-su (=mu-túm ^dšará a-pi₄-sal₄^{ki})

^dnin-gi₆-pâr cf. ^dma-an-iš-du₁₀-su

^damar-^dsuen, ^dda-lagaš^{ki}, é-gar-lagar-e, é-maš,

é-úr, ^den-ki, ^den-lil, gir₁₃-giš^{ki}, ^dgu-la,

ib-gal=^dnin-ib-gal, ^dinanna unu^{ki}, ^dnanše,

^dnin-e₁₁-e, ^dnin-NAGAR.GÍD.MA, ^dnin-sún,

^dnun-gal, ^dšul-gi, ^dšu-^dsuen

持参は、ウンマの都市神シャラの諸神殿とそれに次ぐ第二位の地位にあるニンウルラ神の神殿をはじめとした、ウンマの主要神殿に対しておこなわれた。例外として、アッカド王朝の王であるマニシュトゥスとニンゲバル神がある。ニンゲバル神への持参はマニシュトゥスへの持参とベアになっており、マニシュトゥスへの持参はアピサル市区のシャラ神殿への持参物に合計されている。両者への持参は用例も少なく、特別な事情のもとでなされた持参であり、大きくは主要神殿であるシャラ神殿への支給の一部と見なしてよいであろう。

一方の定期支給は、シャラ神やニンウルラ神などの主要神の神殿だけでなく、ウンマ市の各地に散在する各種神殿に対しても支給されている。

定期支給の大麥量から、ウンマの諸神殿の相対的な規模の比較が可能であろう。YOS 4, 260は、倉庫長から支出された諸神殿への定期支給の一日当たりの大麥を量を記録している。⁽⁶⁾それをシャラ神殿とニンウルラ神殿を筆頭において、大麥量の多いもの順に並べると次のようになる。なお、大麥量の単位はシラである。この表には、先に示した実際の定期支給記録では欠けている神殿も含まれている。

368 1/6	^d šará-umma ^{ki}	20	^d nin- ^d da-lagaš ^{ki}
76	^d šará a-pi ₄ -sal ₄ ^{ki}	17 1/2	^d nin-sún
42	^d šará ki-an ^{ki}	15 1/2	^d nin-NAGAR.GÍD.MA
25 1/2	^d šará anzu ^{mušen} -babbár	15	^d nanše umma ^{ki}
57 1/2	^d nin-ur ₄ -ra umma ^{ki}	13	^d nin-ḥr-sag gu-la
20	^d nin-ur ₄ -ra a-pi ₄ -sal ₄ ^{ki}	13	^d en-lil
		10	^d ka-uš-tab-tab
72	^d amar- ^d suen	10	^d nin-ḥi-li-sù
66	^d šul-gi umma ^{ki}	7	^d nin-SAR
56 1/2	^d inanna zabálam ^{ki}	7	^d nin-zabálam ^{ki} a-pi ₄ -sal ₄ ^{ki}

45	^d en-ki	5	^d ašnan
43	^d nin-e ₁₁ -e	4	^d nin-é-gal
40+6	^d gu-la umma ^{ki}	3 1/2	^d šul-gi a-pi ₄ -sal ₄ ^{ki}
36	^d nin-ib-gal	2 1/2	^d šul-gi anzu ^{mušen} -babbár
30	bará-gir ₁₃ -giš ^{ki}	1 1/2	^d šul-gi šà é- ^d šará (umma ^{ki})
21	^d nun-gal		

大麦量の比較において最大の特徴は、第一位と第二位がウンマ市区とアピサル地区のシャラ神殿で占められ、とりわけウンマ市区にあるシャラ神殿への定期支給が、第二位に対して5倍弱という、他を圧する量であることである。ウンマ市区のシャラ神殿の優位性が推測されるのである。アマルシンの神殿へ的大麦量72シラは、この表中第三位であり、先の王で、王朝を隆盛に導いたシュルギの神殿の第四位をも凌駕している。この記録が書かれた日付は、アマルシン9年の11月である。つまり、アマルシンが没した直後の記録であるので、アマルシンを祭ることが重視された結果であると推定される。いずれにしても、ウルナンム、シュルギ、アマルシンというウル第三王朝の三代の王の神殿が、ウンマにおいて、少なからず重要な地位を占めていたとは言えるであろう。

3 関係者

神々に献納・持参されたものを支出する者、神殿への定期支給を受領する者、こうした関係者をまとめると次のようになる。

	定期支給	献納
^d amar- ^d suen	a-kal-la ^{giš} dur ₂ -gar-ni é-ki-bi (dumu a-a-kal-la guda ₄ - ^d šará) lugal-ba-ta-ab-è šeš-kal-la ur-ša ₆ -ša ₆ -ga ur-gi ₆ -pàr	
^d da-lagaš ^{ki}	*lú-i-zu, *lú- ^d šará	
é-gar-lagar-e	*a-bu ₆ -da (dumu gir-ni) ba-a-[] (dumu uru-x-[] lú-[])	

	gir-ni	
	lugal- ^{giš} gigir-re (dumu gir-ni)	
	lugal-maš-zu	
	^d šará-bí-du ₁₁ ,	
	*ur- ^d en-lil-lá,	
	*ur- ^{giš} gigir (dumu lugal-itu-da),	
	ur- ^d suen	
é-maš	ur-é-gal	
é-úr	ur- ^{giš} gigir	
^d en-ki	*a-lu ₅ ,	
	lú (=lugal?)-kar-re	
	*nigin-gar-ki-du ₁₀	
	*ur-nigin-gar (dumu lugal-kar-re) = guda ₄	
	ur- ^d šará (dumu nigin-gar-ki-du ₁₀)	
^d en-lil	da-a-gi ₄ /gi (dumu ur- ^{giš} gigir)	
èš-didli		lugal-neság-e
gir ₁₃ -giš ^{ki}	ka-kù	
	ur- ^d iškur išib gir ₁₃ -giš ^{ki}	
^d gu-la	*a-du-du	
	á-nin-gá-ta	
	*lugal-gar-lagar-e,	
ib-gal = ^d nin-ib-gal	bu ₆ -du (lú-bappir ^d šará dumu [ur?]- ^d šakan),	
	lú-sig ₅ guda ₄	
^d inanna zabalám ₅ ^{ki}	= ^d nin-zabalám ₅ ^{ki}	
	*á-nin-gá-ta,	šeš-kal-la
	*al-ba-ni-du ₁₁ /ša ₆ ,	
	*ba-a-ti	
^d inanna unu ^{ki}	gir-ni	
^d ma-an-iš-du ₁₀ -su	il	
^d nanše	ba-za-za	
	ḫa-a/ḫa-ša	
	nimgir-di-dè	
^d nè-iri ₁₁ -gal gar-ša-na ^{ki} = èš-didli		

lugal-neság-e

^dnin-e₁₁-een-mí-ús-sa (dumu lu₅-ú nar mí-e₁₁-e)*en-ú-šem-e (dumu ir₁₁-dam nar?·^dnin-e₁₁-e)lú-^dšará dumu é-sag?-il-lašeš-kal-la (dumu ir₁₁-dam guda₄-[])^dnin-gi₆-pàr cf. ^dma-an-iš-du₁₀-su^dnin-NAGAR.GÍD.MA

a-al-NI-mu (dumu nam-ḥa-ni, []-DN)

^dnin-súna-du-du (dumu ma-ma-an, guda₄)lú-me-lí (dumu ḥa-ba-lu₅-ke₄ ugula-gu₄-SI)

*ma-ma-an

^dnin-ur₄-ra/ ^dnin-ur₄-ra umma^{ki}

a-ab-ba-ni

a-ab-ba-ni,

*ša-kù-ge

ša-kù-ge

ur-^dnidaba^dnun-gal

ab-ba

ur-ša₆-ša₆-ga^dšará-a-pi₄-sal₄^{ki}

en-ú-a

*ša-kù-ge (dumu ḥé-ša₆-geišib-^dšará)^dšará-anzu^{mušen}·babbaršeš-kal-la (guda₄-^dšará dumu ab-[ba?]) ur-^dšaráur-^dutu^dšará -ki-an^{ki}lú-^dšará

da-da

ur-dun

^dšará umma^{ki}

a-kal-la (lú-bappir)

lugal-nir

a-na-mu

na-ú-a

al-la

al-lu

da-da-a

	é-sag-il-la
	ḥé-ma-zi-zi (lú-bappir)
	lú- ^d nin-šubur (dumu du ₁₀ -ga šabra)
	lú- ^d nin-šubur (dumu šeš-kal-la šabra)
	lugal-an-né (dumu ur- ^d nin-x lú-bappir)
	lugal-ezem
	lugal-má-gur ₈ -re,
	lugal-pa-è,
	nam-lugal-a-ni-du ₁₀
	šá-a-da
	šeš-kal-la (dumu ir ₁₁ -dam guda ₄ -[])
	ur-gi ₆ -pàr (dumu da-da)
	ur- ^d ma-mi
	ur-mes
	ur- ^d suen dumu ^d šará-bi-du ₁₁
	ur- ^d suen ninda-du ₈
^d šul-gi	a-lu ₅ -lu ₅ šem
	ab-ba-kal-la
	na-di (šem)
	ur-lugal
^d šu- ^d suen	a-a-kal-la

この一覧表における特徴を以下の三点にまとめることができよう。

(1) ニンウルラ神殿を除いて、献納と定期支給の関係者は一致しない。

(2) 献納関係者の職名として現れるのは、シャブラとイシブである。シャブラは神殿の上級管理者の職名であり、イシブは神官とされている。その一方で、定期支給受領者はグダ神官とされる例が多いが、išib, šabra, nar, ninda-du₈, lú-bappir, šem などの職名が現れる。その中でも ninda-du₈, lú-bappir, šem などパン製造・醸造関係者が多い。lú-bappir と ninda-du₈ が併記される文書もあるので、⁽⁷⁾彼らは同一の職場で働く近似した職種の者であろう。穀物からビールやパンを製造するという実際の作業に従事するものたちが主に受領者になっていたのである。

シャブラたるドウツガの子ルニンシュブル (lú-^dnin-šubur/ dub-sar/dumu du₁₀-ga/šabra/) が、葦を前庭 (kisal) や門衛 (i-du₈) 用に受領した記録 (TCNY 290) があるので、定期支給受領者として現れるシャブラやイシブは、製造過程に関わるのではなく、祭りに関係して受領したと推定

される。

(3) 彼らは、他の文書からギルセガ (gir-sè-ga) であることが確認される。上記の*印は、Sauren, OLP 8, 21 (SS 4) と AnOr 1 88 (AS 5) からギルセガと確認される者である。ギルセガの正確な意味は未だ確定できないが、神殿等の組織に従属する所属員を総称する用語であることは確かである。定期支給の受領者は各々の神殿に従属するものであるが、Sauren, OLP 8, 21 (SS 4) と AnOr 1 88 (AS 5) が、ウンマ市をアピサル市区とウンマ市区に分けて、各々の市区におけるバル義務を果たす者の記録であることから理解されるように、王権に奉仕するときは、神殿を越えた構成となっているのである。その点で神殿の自立性は制限的であったと言えるであろう。

4 定期支給大麦の支出者

諸神殿への定期支給は神々への供物や神殿所属員のための支給であるが、おおむね一人の担当者から支出された。シャラ神への定期支給を例にとりて、だれから支出されたかを見てみたい。

S 28	viii	ki ur- ^d li _g -si ₄ -ta	CCTB 2 173
S 29	x-xi	ki ur- ^d li _g -si ₄ -ta	CTNY 356
S 31	i	< >	MVN 3 130
S 31	iv	ki ur- ^d li _g -si ₄ -ta	MVN 3 118
S 32	ii-iv	ki ir ₁₁ -ta	MVN 13 858
S 32	i+i	ki ir ₁₁ -ta	Or 47/49,160
S 32	i+i	ki ir ₁₁ -ta	Owen, JCS 46 3
S 33	iii, iv	ki ir ₁₁ -ta	Owen, ASJ 17, 2
S 34	iv	ki ir ₁₁ -ta	Or 47/49, 184
S 35	ii-iv	ki ad-da-ta	MVN 13, 194 : gur ₇ -du ₆ -kù-ge
S 36		ki ir ₁₁ -ta	MVN 3, 148
S 36	xiii	ki ir ₁₁ -ta	MVN 3, 149
S 39		ki ir ₁₁ -ta	SET 196
S 44		ki ir ₁₁ -ta	SET 191
S 45a	i	ki ir ₁₁ -ta	MVN 13, 705
S 45	iii	ki ir ₁₁ -ta	MVN 13, 205
S 45/AS 2		ki ensi-ta	Maaijer, ASJ 15, p.287
S 46		< >	UCP 9/1, 88
S 46a	v	ki ur- ^d šul-pa-è-ta	TPTS 187 : zú-lum ní-g-i-dè-a (ナツメヤシ)
S 47	xii	ki ir-re-eb-ta	TCNY 290 : gi : gá-nun-ta (葦)

S 48	xii	ki ir ₁₁ -ta	MVN 13, 198
AS 2		< >	Biggs, ASJ 12, 6 : gi (葦)
AS 3	v	ki ir ₁₁ -ta	CCTB 2 k
AS 3	ix	ki ir ₁₁ -ta	SET 189 :
AS 4	viii	ki ur- ^d šará-ta	Nik 2 201 : giš (木)
AS 7	viii	ki ur-é-maš-ta	CTNY 72 : gi (葦)
AS 8	i-	ki lú-bàn-da-ta	MVN 15, 88 : se (大麦)
AS 8	ii	ki lú- ^d šul-gi-ra-ta	MVN 13, 40
SS 6	xii	< >	RA 8, p.156 : AO 5647
IS 3	xi	ki gu-du-du-ta	MVN 13, 856
IS 3	i-xii	ki gu-du-du-ta	MVN 15, 39 :

ナツメヤシや葦を除く大麦に関して、その支出者は、時間の順序に従って、おおむねウルリシ、イル、グドウドゥが担当した。彼らについては別稿で論じた。⁽⁸⁾それを要約すると、ウルリシは、後にウンマの支配者（エンシ）になるが、倉庫長として支給した。ウルリシを継いで倉庫長となったのがイルである。グドウドゥが倉庫長という役職に付いたかどうか確認できないが、イルの後継者であることは確かである。つまり、同一系列の役職者から支出されたのである。とりわけ、彼らがウンマの支配者の一族であることは、神殿の性格を考えると重要な意味を持つであろう。つまり、ウンマの諸神殿は王の経営体から独立した権威を有するも、その保護下にあったことが理解されるのである。

結語にかえて

ウンマの諸神殿に対する献納と定期支給を検討し、諸神殿が王の支配に従属した自立性に乏しい組織ではないかと推定した。定期支給に於いて、現業の醸造や製パン従事者でないシャブラが受領者の場合があった。それは供物や神祭りに責任を負うがため受領者になったと考えられるが、こうした役割を担うシャブラが、隣接都市ラガシュのように、当該神殿全般の管理に責任を持っていたかどうかは、現在の文書からは確証が得られない。

この問題に関連して、献納関係者のうち、ウンマの主神シャラ神の献納を扱う na-ú-a については、より広い活動をするように思われる。確証はないが、彼が、献納の書記 (dub-sar-a-ru-a) とされる同名人と同一人物である可能性がある。⁽⁹⁾両者が同一人物であれば、ナウアは、シャラ神の献納だけでなく、ウンマ市全域の献納を管理していたと推定されるのである。さきに、ウンマの諸神殿の相対的な規模を検討し、ウンマ市区のシャラ神殿が圧倒的な規模をもっていたと結論したが、献納などの諸活動においても、シャラ神殿がウンマ全域に互ってその活動の中心に

なっていたとも考えられるのである。このことは、ウンマの社会や国家を考えるうえに重要な観点になると指摘するに留め、今後の研究に成果を期待することにしたい。

注

- (1) 本稿は、1995年度早稲田大学特定課題「ウル第三王朝時代ウンマにおける神殿管理官」の研究成果である。また、第35回シュメール研究会（1996.8.30於京大会館）において「mu-tum₂-DN & sa₂-dug₄-DN in Umma texts」と題して発表した原稿を加筆訂正したものである。
- (2) 拙稿「シュメール王権の展開と家産制」『オリエント』38/2（1995）
- (3) 前川和也「シュメール・ウル第三王朝の属州ギルス経営」中村賢二郎編『国家一理念と制度』京都1989, 479-546.
- (4) Gelb, I.J. 'The Arua institution', RA 66 (1972) 1-32.
- (5) 前掲拙稿参照。
- (6) sá-dug₄ dingir-re-ne ù šà-gal anše-[bar-an], u₄-l-kam ki ka-gur₇-ta
- (7) UTAMI 3, 2283: I PN 1-2, bappir ù ninda-du₈-me
- (8) T. Maeda, Rulers' family of Umma and control over the circulation of silver, *Acta Sumerologica* 18 (1996 in print).
- (9) BIN 5 105 (S 32)

補1 定期支給 (sá-dug₄)

sá-dug₄-^damar-^dsuen

?? AnOr 7, 329 : ur-ša₆-ša₆-ga/ ur-gi₆-pàr/a-kal-la/lú-ba-ta-ab-è

AS 6 vi BIN 5 48 : še, DUB a-kal-la

SS 5 MVN 3, 269 : [] seal : é-ki-bi/dumu a-a-kal-la/guda₄-^dšará/

?? (SS ?) Nik 2, 273 : DUB ^{gi₈}dúr-gar-ni & šeš-kal-la

sá-dug₄ ^dda-lagaš^{ki}

-- AnOr 7 329 = MVN 18 329 : lú-i-zu

AS 3 & 4 ŠA LXXIX : 135a : lú-i-zu ù lú-^dšará

SS 6 Or 47/49 450 : lú-i-zu ù lú-^dšará

SS 9 iii MVN 15 356 : lú-i-zu

sá-dug₄ é-gar-lagar-e

[] xii BRM 3 85 : ki ir₁₁-ta ^dšará-bi-du₁₁

S 32 v MVN 3,132 : é-gar?-lagar?, ur-^{gi₈}gigir [šu ti]

S 33 v MVN 15,90 : ki ir₁₁-ta, ur-^{gi₈}gigir šu-ti ; seal : ur-^{gi₈}gigir/dumu lugal-itu-da/

S 33 xii MVN 3, 138 : ki ir₁₁-ta gir-ni šu-ti

S 33 xiii Or 47/49, 171 : ki ir₁₁-ta ba-a-[] šu-ti : seal : ba-a-[]/dumu uru-x-[]/lú-[]/

S 35 xi Or 47/49, 177 : ki ir₁₁-ta, gir-ni šu-ti : seal : a-bu₆-da/ dumu gir-ni/

S 36 xiii MVN 3, 150 : ki a-ab-ba-ni-ta, ur-^dsuen šu-ti

S 37 MVN 3, 155 : ki ir₁₁-ta, a-bu-da šu-ti : seal : a-bu₆-da/ dumu gir-ni/

S 40 ii TPTS 274 : ki ir₁₁-ta, ur-gi₈.gigir šu-ti : seal : ur-^{gi₈}gigir/dumu lugal-x[]/lú-é-x-ga/

S 44 MVN 13, 697 : ki ir₁₁-ta, a-bu-da šu-ti : seal : a-bu₆-da/dumu gir-ni/

AS 3 SET 186 : ki ir₁₁-ta, DUB lugal-maš-zu : seal : lugal-^{gis}gigir-re/ dumu gir-ni/
(šu-ti) : lugal-^{gis}gigir-re/ šeš-kal-la/lugal-maš-zu/a-bu₆?-da/

AS 6 vi BIN 5 48 DUB ur-^den-lil-lá

SS 1 vii CCTB 2 255 : D⁷,B lugal-maš-zu

sá-dug₄ é-maš

? ? (SS ?) Nik 2, 273 : DUB ur-é-gal

sá-dug₄ é-úr

S 32 v MVN 3, 132 : ki ir₁₁-ta, ur-^{gis}gigir (šu-ti)

sá-dug₄ ^den-ki

? ? AnOr 7,329 = ^den-ki ù ^duš-ka-tab-tab, ur-nigin-gar/nigin-gar-ki-du₁₀

? ? BIN 5 50 : še, ^duš-ka-tab-tab DUB nigin-gar-ki-du₁₀

S 36 i BRM 3 86 : = ^den-ki ù ^duš-ka-tab-tab, ki ir₁₁-ta lú-kar-re šu-ti, gir lú-dingir-ra

S 37 xii HEU 7 : = ^den-ki ù ^duš-ka-tab-tab, ki ir₁₁-ta ur-nigin-gar šu-ti

seal : ur-nigin-gar/ dumu lugal-kar-re/

S 38 xii SET 195 : ki ir₁₁-ta, ur-nigin-gar šu-ti : seal : ur-nigin-gar/[]/

S 39 x SET 194 : ki ir₁₁-ta, ur-nigin-gar šu-ti : seal : ur-nigin-gar/ dumu lugal-ga-hu (=kar-re?)/

S 40 vi MVN 3, 175 : ki ir₁₁-ta, ur-nigin-gar šu-ti : seal : ur-nigin-gar/dumu lugal-kar-re/

S 40 x SET 192 : ki ir₁₁-ta, ur-nigin-gar guda₄ šu-ti

S 41 i MVN 3, 192 : ki ir₁₁-ta, ur-nigin-gar šu-ti : seal : ur-nigin-gar/ dumu lugal-kar-re/

AS 3 & 4 A LXXIX : 135a : ur-nigin-gar ù dumu-lú-bi gir lú-gi-na ù gu-du-du

SS 6 xii RA 8, p.157, AO 5647 : DUB a-lu₅

??(SS?) Nik 2, 273 : DUB ur-^dšará

IS 3 x MVN 13, 865 : ki gu-du-du-ta, ur-^dšará šu-ti :

seal : ur-^dšará/dumu nigin-gar-ki-du₁₀/x-a-du-xx/

sá-dug₄ ^den-lil

S 39 xiii BRM 3 89 : ki ir₁₁-ta, da-a-gi šu-ti : seal : da-a-gi₄/dumu ur-^{gis}gigir/

sá-dug₄ gir₁₃-giš^{ki}

? ? AnOr 7,329:[]

S 28 viii Or 47/49 379 : še : é šeš-kal-la-ta ur-^dli₉-si₄-ta, ur-^diškur išib gir₁₃-giš^{ki} šu-ti,

S 32 v-S 33 i itu-9 : CHEU 57 : ki ir₁₁-ta, ur-^diškur šu-ti,

S 45a v CHEU 13 : ki ensi-ta, ka-kù

AS 3 & 4 SA LXXIX : 135a : ka-kù

SS 3? xi MVN 14 144 : ka-kù

sá-dug₄ ^dgu-la

? ? AnOr 7, 329 : a-du-du/lugal-gar-lagar-e/

?? (SS ?) Nik 2, 273 : DUB á-nin-gá-ta

SS 8 Hallo, JANES 21 9 : DUB a-du-du (seal illegible)

sá-dug₄ ^dinanna zabalám₅^{ki} see ^dnin-zabalám₅^{ki}

SS 6 BIN 5 49 : še, DUB á-nin-gá-ta seal illegible

? ? AnOr 7, 329 : al-ba-ni-ša₆/á-nin-gá-ta/ba-a-ti/

? ? CCTB 2 232 : <zabalám^{ki}> [al]-ba-ni-du₁₁

sá-dug₄ ^dinanna unu^{ki}

S 39 vii MVN 3,164 : ki ir₁₁-ta gir-ni šu-ti

sá-dug₄ ^dnanše

? ? AnOr 7,329 : ḥa-ḥa-ša/nimgir-di-dè/

S 35 xi MVN 3,141 : ki ir₁₁-ta, DUB á-mu-ni-gál, mu ḥa-ḥa-ša-šè

?? (SS ?) Nik 2,273 : DUB ba-za-za

sá-dug₄ ^dnin-e₁₁-e

S 34 xi MVN 3,141 : ki ir₁₁-ta, en-mí-ús-sa šu-ti :

seal : en-mí-ús-sa/dumu lu₅-ú nar/mi-e₁₁-e-ka/

S 38 xii MVN 1,192 : (<^dnin-e₁₁-e>), lú-^dšará dumu é-sag?-il (AN)-la šu-ti

S 40 xiii MVN 3,182 : ki ir₁₁-ta, en-mí-ús-sa šu-ti

S 40 xiii TCNY 279 : ki ir₁₁-ta, en-ú-šem-e šu-ti :

seal : en-ú-šem-e/ dumu ir₁₁-dam/ nar??-^dnin-e₁₁-e/

? vi UCP 9/1, 53 : en-ú-šem-e

AS 3 & 4 ŠA LXXIX : 135a : (<nin->), šeš-a-ni

IS 3i-xii MVN 15, 39 : (<nin->), ki gu-du-du-ta, šeš-kal-la : seal : šeš-kal-la/dumu ir₁₁-dam gu[da₄ -]/

sá-dug₄ ^dnin-ib-gal=ib-gal=^dinanna

? ? TPTS 186 : [] <šú-ti>

? ? AnOr 7,329 : bu₆-du/ lú-sig₅

S 34 i MVN 3,141 : ki ir₁₁-ta, ur-gi₆-pàr šu-ti, DUB é-úr-bi : seal : é-úr-bi/dumu lugal-neság/

S 34 viii Or 47/49, 179 : ki ir₁₁-ta bu₆-du šu-ti

-35 i seal : bu₆-da ?/ lú-bappir-^dšará/ dumu [ur?]-^dištaran/

cf. AS 3 x MVN 1 202 : DUB lú-sig₅ guda₄ seal : lú-ša₆-ga/dumu ur-gi₆-pàr/guda₄-^dinanna

AS 3 & 4 A LXXIX : 135a : lú-sig₅

AS 5 vii Nik 2,265 : ki lú-sig₅-ta

SS 1a ii *RA 8, p.156 : AO 5648 : DUB lú-sig₅ guda₄

sá-dug₄ ^dnin-NAGAR.GÍD.MA

? ? AnOr 7,329 : []

AS 3 xii SET 193 : ki ir₁₁-ta DUB a-al-NI-mu:

seal : a-al-NI-mu/ dumu nam-ḥa-ni/[]-nin-NAGAR.GÍD-ma/

sá-dug₄ ^dnin-sún

S 35 vii Or 47/49, 186 : ki ir₁₁-ta, lú-me-lám šu-ti :

seal : lú-me-lám/ dumu ḥa-ba-lu₅-ke₄/ugula gu₄-SI/

- S 35 xi MVN 3,141 : ki ir₁₁-ta lú-me-lám šu-ti
 AS 3 vii MVN 1,193 : a-du-du šu-ti : seal : a-du-du/dumu ma-ma-AN/ guda₄-^dnin-sún-ka/
 SS 5 ix-xii CCTB 2 176 : ma-ma-an seal illegible
 ? ? AnOr 7,329 : []-ma-AN
 . . xii-i MVN 1 196 : < >

- sá-dug₄ ^dnin-ur₄-ra
 ? ? TPTS 186 : a-ab-ba-ni <šu-ti>
 ? ? (SS?) Nik 2,273 : DUB ša-kù-ge

- sá-dug₄ ^dnin-zabalam₅^{ki} see ^dinanna zabalam^{ki}
 AS 4 xiii MVN 1,194 : al-ba-ni-du₁₁ : níg-mussa ^ddumu-zi-da sá-dug₄ ^dnin-zabalam₅^{ki}

- sá-dug₄ ^dnun-gal
 AS 3 SET 190 : ki ir₁₁-ta DUB ur-ša₆-ša₆-ga
 AS 3 & 4 A LXXIX : 135a : ur-ša₆-ša₆-<ga>
 ? ? (SS ?) Nik 2,273 : DUB ab-ba

- sá-dug₄ ^dšará
 [] MVN 13,206 : []
 ? ? TPTS 186 : ~anzu^{mušen}-babbar, ur-^dutu <šu-ti>
 S 28 viii CCTB 2 173 : hē-ma-zi-zi šu-ti
 S 29 x-xi TCNY 356 : ki ur-^dli₉-si₄-ta hē-ma-zi-zi šu-ti : seal : hē-ma-zi-zi/lú-bappir/
 S 31ai MVN 3,130 : é-sag-il-la šu-ti : seal : ur-^dbar-xx/^d lú-^dx/ nu-bandā-x-nin/
 S 31 iv MVN 3,118 : ki ur-^dli₉-si₄-ta é-sag-il-la šu-ti
 S 31 vii MVN 5 1 : ki ur-^dli₉-si₄-ta é-sag-il-la šu-ti
 S 32 ii-iv MVN 13,858 : ki ir₁₁-ta, ur-^dsuen dumu ^dšará-bí-du₁₁ šu-ti
 S 32 ii-S 33 i MVN 15 353 : da-da-a šu-ti
 S 32 ii-S 33 i Owen, JCS 23, 5 : ur-mes šu-ti seal illegible
 S 32 v Or 47/49,160 : da-da-a šu-ti
 S 32 xiii-S 33 xii HEU 4 lugal-ezem šu-ti : seal : lugal-ezem/dumu lugal-xx
 S 32 i Or 47/49, 159 : še sá-dug₄ itu-i, sá-dug₄-diri-ga, a-na-mu šu-ti
 seal : a-na-mu/dumu lugal-é- []/lú-šem-^dšará/
 S 32 i+i Or 47/49, 160 : a-na-mu šu-ti
 S 32 i+i Owen, JCS 46 3: nam-lugal-a-ni-du₁₀ (=nam-lugal-ni-du₁₀) (itu-13)
 S 33 i+i HEU 15 : ki ir₁₁-ta, šeš-kal-la šu-ti : seal : šeš-kal-la/dub-sar/dumu du₁₀-ga/
 S 33 iii, iv Owen, ASJ 17, 2 : nam-lugal-ni-du₁₀
 S 34 iv Or 47/49,184 : ki ir₁₁-ta, ša-a-da šu-ti
 S 35 ii-iv MVN 13,194 : ki ad-da-ta, nam-lugal-i-du₁₀ šu-ti
 S 36 itu-13 MVN 3,148 : ki ir₁₁-ta, ur-mes šu-ti
 S 36 xiii MVN 3,149 : ki ir₁₁-ta, lugal-pa-è šu-ti
 S 36 ii-S 37 i itu-12 : UDU 8 : ki ir₁₁-ta, lugal-ba-ta-è šu-ti
 S 39 SET 196 : ur-^dsuen NÍG-DU₈ šu-ba-ti : seal : ur-^dsuen/dumu lú- []

- S 39 ii-xii MVN 14 189 : ki ir₁₁-ta, lugal-gú-en-e šu-ti
 S 44 SET 191 : ki ir₁₁-ta, a-kal-la šu-ba-ti : seal : a-kal-la/ dumu ur-[]/lú-šem/
 S 45a i MVN 13,705 : ki ir₁₁-ta, ur-^dma-mi šu-ti : seal:[]/[]-é-sikil?/
 S 45 iii MVN 13,205 : ki ir₁₁-ta, ^dšará-a-zi šu-ti
 S 45/AS 2 Maaijer, ASJ 15, p.287 : ki ensi-ta, šeš-kal-la šu-ti :
 seal : šeš-kal-la/ guda₄-^dšará/dumu ab-[ba?]/=^dšará-anzu^{musen}.babbar
 S 46 UCP 9/1, 88 : še sá-dug₄ u₄-dè-gíd-da ^dšará, gir na-ú-a
 S 46a v TPTS 187 : DUB lú-^dnin-šubur, ki ur-^dšul-pa-è: zú-lum níg-i-dé-a
 S 47 xii TCNY 290 : (gi : kisal, i-du₈) ki ir-e-eb-ta, DUB lú-^dnin-šubur
 seal : lú-^dnin-šubur/^ds.^d du₁₀-ga/šabra/
 S 48 xii MVN 13,198 : ki ir₁₁-ta, ur-^dsuen šu-ti
 AS 2 Biggs, ASJ 12, 6 : DUB lú-^dnin-šubur : seal : lú-^dnin-šubur/d.s./d. šeš-kal-la/šabra/
 AS 3 v CCTB 2 k : ki ir₁₁-ta, DUB al-la
 AS 3 ix SET 189 : ki ir₁₁-ta, DUB lugal-má-gur₈-re
 AS 4 viii Nik 2 201 giš, DUB lú-^dnin-šubur : seal : lú-^dnin-šubur/d.s./d. šeš-kal-la/ šabra/
 AS 4a v-viii CHEU 47 : ki ir₁₁-ta, a-an-na-mu šu-ti : seal : a-an-na-mu/dumu lugal-é-maḥ/
 AS 6 vi BRM 3 90 : ku₆ : mu lugal-gar-lagar-e-šè DUB ur-è-maḥ
 seal : ur-é-maḥ/dumu lú-^dxx/
 AS 7 viii CTNY 72 gi, DUB lú-^dnin-šubur : seal : lú-^dnin-šubur/d.s./d. šeš-kal-la šabra/
 AS 8 i- MVN 15,88 : DUB lugal-an-nè (^dur-nin-x, lú-šem)
 iv (lugal-má-gur₈-re ù PN šu ba-ti-és)
 AS 8 ii MVN 13,40 : ki lú-^dšul-gi-ra-ta, DUB ur-gi₆-pàr : seal : ur-gi₆-pàr/dumu da-da/
 SS 6 xii RA 8, p.157 : AO 5647 : DUB al-lu
 IS 3 xi MVN 13,856 : ki gu-du-du-ta, DUB lugal-ezem : seal : lugal-ezem/[]/
 IS 3 i-xii MVN 15,39 : ki gu-du-du-ta, šeš-kal-la : seal : šeš-kal-la/dumu ir₁₁-dam gu[da₄]/

sá-dug₄-^dšul-gi

? ? AnOr 7,329 : na-di/ur-lugal

S 33 xii CHEU 17 a-lu₅-lu₅ šu-ti : seal : a-lu₅-lu₅/ dumu lugal-da?/

S 33 v-xii Or 47/49,170 : a-lu₅-lu₅ šu-ti

S 46 xii UCP 9/1,20 : a-lu₅-lu₅ šem šu-ti

? ? (SS ?) Nik 2,273 : DUB ab-ba-kal-la

sá-dug₄-^dšu-^dsuen

? ? (SS ?) Nik 2,273 : DUB a-a-kal-la

補2 献納 (mu-túm)

mu-túm èš-didli

SETUA 242 (S 43) mu-túm èš-didli ki lugal-neság-e-ta

SETUA 246 (S 43) mu-túm ^dnè-iri₁₁-gal gar-ša-na-ka^{ki}, ki lugal-neság-e-ta

mu-túm ^dinanna zabalam₅^{ki}

SET 130 (AS 4) mu-túm ^dinanna zabalam₅^{ki}, ki šeš-kal-la-ta

mu-túm ^dnin-ur₄-ra umma^{ki}

Nik 2,371 (S 41) mu-túm ^dnin-ur₄-ra, ki ur-^dnidaba-ta

UTAMI 3,1648 (AS 8) i-nun, šu-nir ^dnin-ur₄-ra, DUB šà-kù-ge

seal : a-ab-ba-ni/ dub-sar/ šabra//^dnin-[ur₄-ra]/dumu ur-[]/

AnOr 7,264 (AS 9) udu, máš šu-nir-ra ^dnin-ur₄-ra umma^{ki}, gir šà-kù-ge

mu-túm ^dšará umma^{ki}

Or 47/49 248 (S 44 i-xiii) anše ; mu-túm ^dšará ki na-ú-a-ta DUB lugal-kù-zu

cf. CCTB 2 105 (S 47 vi) tóg-^dšará kar-ra ki na-ú-a-ta, DUB ensi-ka

BIN 5,12 (S 48) anše, mu-túm ^dšará umma^{ki}, ki na-ú-a-ta kas₄ i-dab₅

Nik 2,397 (S 48xi) tóg ^dšará kar-ra umma^{ki}, ki na-ú-a-ta

CTNY 388 (AS 2) <mu-túm ^dšará umma^{ki}>, ki na-ú-a-ta

UTAMI 3,1882 (AS 8) gu₄-giš, mu-túm ^dšará ki lugal-nir-ta

UTAMI 3,2139 (AS 8) giškir₁₆ ^{si}gišimmar mu-túm ^dšará ki lugal-nir-ta, a-gu-du i-dab₅

Nik 2,445 (AS 9) erin etc. mu-túm ^dšará umma^{ki}, ki lugal-nir-ta

AnOr 7,264 (AS 9) anše-udu, mu-túm ^dšará umma^{ki}, gir lugal-nir

MVN 14,449 (SS 2) gu₄, mu-túm ^d[šará], ki lugal-nir-ta

BIN 5,2 (SS 4) mu-túm ^dšará kú-AN-ku₄-ra ki lugal-nir-ta, DUB ensi,

SA CLXV : 145 (SS 2 ix) 5 gemé, a-ru-a lugal-itu-da-me ki lugal-nir-ta, ur-^dnin-tu i-dab₅

Or 47/49 419 (SS 4) 1 má-20-gur má lú-ib-gal dub-sar mu-túm ^dšará, ki lugal-nir-ta

mu-túm ^dšará a-pi₄-sal₄^{ki}

CCTB 2 72 (S 43) kù-sig : šu-nir-ra ^dšará a-pi₄-sal₄^{ki}, en-ú-a

Or 47/49 328 (AS 2 i-xiii) mu-túm ^dšará du₆ ^dnin-tin-ug₅-ga gir šà-kù-ge

SET 130 (AS 4) mu-túm ^dšará a-pi₄-sal₄^{ki}, šu-nir-ra ^dnin-ur₄-ra a-pi₄-sal₄^{ki} ki šà-kù-ge-ta

Lafont, RA 86,pp.108-9 (AS 7) níg-ŠID-ak mu-túm [^d] šará a-pi₄-sal₄^{ki}, itu-12-kam, gir šà-kù-ge

Nebraska 35 (AS 7) mu-túm šà-bi su-ga ^dšará -a-pi₄-sal₄^{ki}, DUB šà-kù-ge dumu hē-šá₆-ge

seal : šà-kù-ge/dumu hē-šá₆-ge/išib-^dšará

Römer, OMRO 56 11 (AS 8) mu-túm ^dšará a-pi₄-sal₄, ki šà-kù-ge-ta DUB ur-e₁₁-e

UTAMI 3 1780 (AS 8) mu-túm ^dšará <a-pi₄-sal₄^{ki}> ki šà-kù-ge-ta

UTAMI 3,2115 (AS 9) mu-túm ^dšará a-pi₄-sal₄^{ki} ki šà-kù-ge-ta

BIN 5,17 (SS 1) mu-túm ^dšará a-pi₄-sal₄^{ki}, ki šà-kù-ge-ta i-kal-la šu ba-ti

UTAMI 3,2130 (SS 4) i šu-nir-ra ^dšará a-pi₄-sal₄^{ki} gir šà-kù-ge

CCTB 2 72 (S 43) ur-^dšará guda₄-^dšará anzu^{mušen}-babbar

SET 273 (AS 3) mu-túm ^dšará anzu^{mušen}-babbar, ki ur-^dšará-ta

BIN 5,18 (AS 7) tóg, tóg-dumu-kar-ra ^dšará anzu^{mušen}-babbar, ki lugal-<a>-ni-šá₆-ta i-kal-la šu-ti

MVN 14,282 (AS 9) tóg ^dšará anzu^{mušen}-babbar, ki lugal-a-ni-šá₆-ta i-kal-la šu-ti

MVN 14,566 (AS 9) anše ^dšará anzu^{mušen}-babbar, ki lugal-a-ni-šá₆-ta i-kal-la šu-ti

NCT 28 (SS 2) tóg ^dšará anzu^{mušen}-babbar, ki lugal-a-ni-šá₆-ta i-kal-la šu-ti

mu-túm ^dšará du₆-lugal-DU

SET 130 (AS 3) mu-túm ^dšará du₆-lugal-DU, ki ur-^dba-ú-ta

mu-túm ^dšará ki-an^{ki}

Nik 2,371 (S 41) mu-túm ^dšará ki-an^{ki}, ki an-né-ba-du₇-ta

TLB 3 37 (S 42) mu-túm ^dšará ki-an^{ki}, ki da-da-ta

CCTB 2 143 (S 48) [níg-ŠID]-ak mu-túm ^dšará ki-an^{ki}, [gir] da-da

SAKA57 (AS 4) mu-túm ^dšará ki-an^{ki}, ki ur-dun-ta

BIN 5,13 (AS 9) mu-túm ^dšará ki-an^{ki}, ki ur-dun-ta uš-mu i-dab₅

AnOr 7,264 (AS 9) mu-túm ^dšará ki-an^{ki}, gir ur-dun

UTAMI 3 2285 (SS 3 i-xiii) mu-túm ^dšará ki-an^{ki}, gir ur-dun dub-sar